

# JMS NOTES



## 第57期 第2四半期 事業のご報告

2021年4月1日～2021年9月30日

### 目次

01 連結財務ハイライト

02 ごあいさつ

03 トピックス

05 JMS PREMIUM REPORT

事業ポートフォリオの最適化

「サージカル&セラピー BUの取り組み」

09 【特集】

「ミクスフロー MP」開発者インタビュー

11 セグメント情報

12 システム別売上高

13 財務諸表

14 会社情報

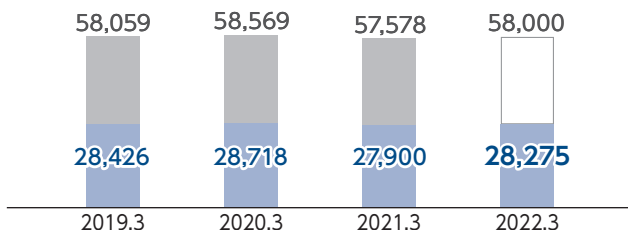
# JMS

人と医療のあいだに…

# 連結財務ハイライト 第57期 第2四半期業績(累計)

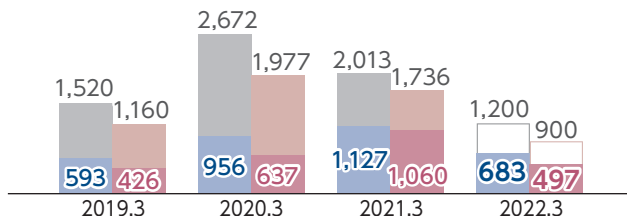
**売上高** 282億75百万円

(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



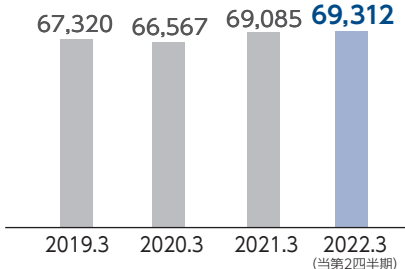
**経常利益** 6億83百万円  
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 4億97百万円

(百万円) ■ 経常利益 ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想  
■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



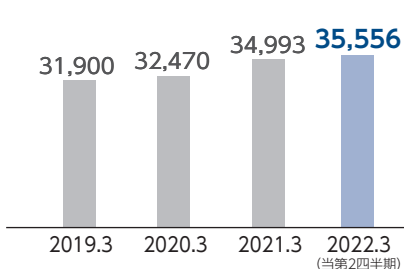
**総資産** 693億12百万円

(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



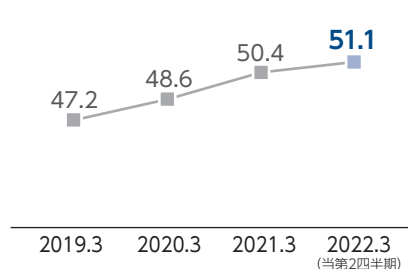
**純資産** 355億56百万円

(百万円) ■ 第2四半期 ■ 通期



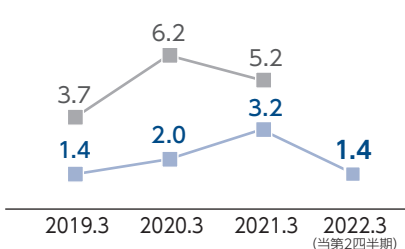
**自己資本比率** 51.1%

(%) ■ 第2四半期 ■ 通期



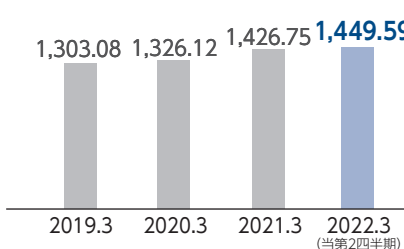
**自己資本四半期(当期)純利益率(ROE)** 1.4%

(%) ■ 第2四半期 ■ 通期



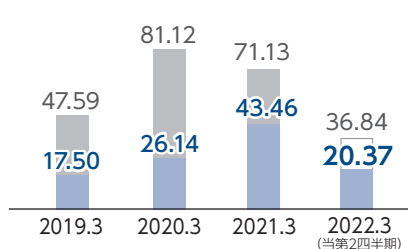
**1株当たり純資産** 1,449円59銭

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期



**1株当たり四半期(当期)純利益** 20円37銭

(円) ■ 第2四半期 ■ 通期 □ 予想



【見直しに関する注意事項】上記予想は、新型コロナウイルス感染症による影響が一定程度は残ると仮定して算出しております。

## ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)や世界各地を襲った熱波や大雨の異常気象など、私たちの生活を脅かす出来事が続いております。罹患された方々や被害に遭われた方々にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。また、医療の最前線で献身的な活動を今もなお続けておられる医療従事者の方々に、深く感謝申し上げます。

ここに、当社第57期第2四半期(2021年4月1日から2021年9月30日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績は、日本国内においては、医療機関における外来患者の受診控えや不急の手術・処置の延期などの状況に回復の傾向がみられることから、売上高は増加しました。また、新型コロナ対策としてワクチン接種が進展するなか、新たに開発したワクチン接種用シリンジの供給を開始しました。

海外においては、AVF針(血液透析用針)の販売が中国や欧州において透析患者数の増加やシェア獲得などにより拡大した一方で、コロナ禍に

よる外出制限等に伴い、血液事業における採血数の減少影響を受け、血液・細胞領域の製品を中心に売上高は減少しました。

この結果、当第2四半期の売上高は、前年同四半期に比べ3億75百万円増加の282億75百万円(前年同四半期比1.3%増)となりました。

利益につきましては、増収効果の一方で、海外生産拠点の現地通貨高や原材料価格の高騰による原価率上昇の影響を受けたことに加え、販売活動の段階的な再開に伴う販売費の増加により、営業利益は6億14百万円(前年同四半期比41.2%減)となりました。また、持分法による投資利益の減少に対し、為替差損が減少したことから、経常利益は6億83百万円(前年同四半期比39.4%減)となり、特別利益で補助金収入が前年同四半期に計上されていることから、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億97百万円(前年同四半期比53.1%減)となりました。

配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき8.5円とさせていただきます。

当社グループは、新型コロナの一日も早い収束につながるよう、今後も市場で求められる製品の供給体制を強化し、医療機器メーカーとして引き続き貢献してまいります。

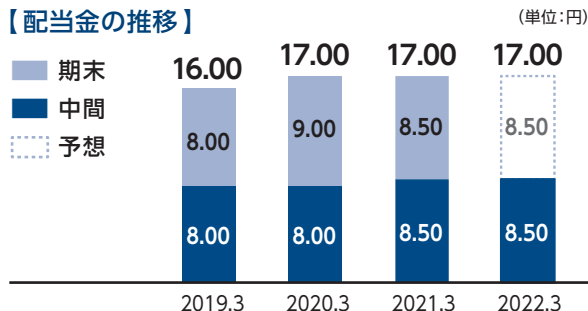
株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2021年12月



代表取締役社長  
奥窪 宏章

### 【配当金の推移】

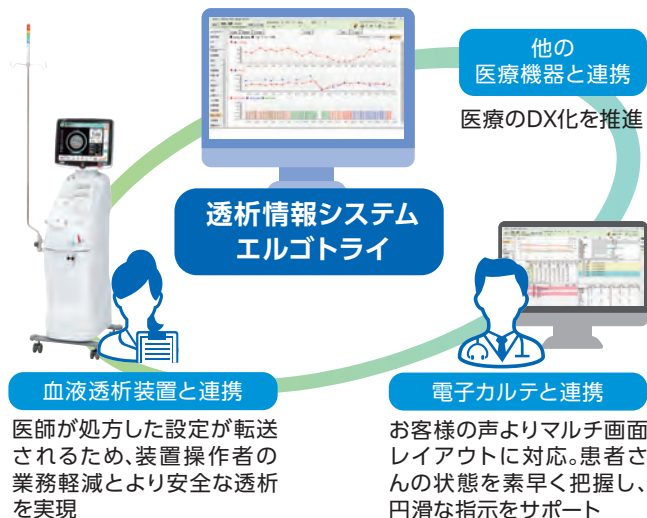


## 使いやすさを追求し、新デザインに進化した 透析情報システム「エルゴトライ-HT」を販売開始

当社は2021年8月2日から、慢性腎不全患者さんが行う血液透析療法の処方情報と、その患者さんの診療記録である電子カルテをつなげる透析情報システム「エルゴトライ-HT」の販売を開始しました。

本製品は、医師の処方による患者さんごとの透析条件を血液透析装置に転送することで、装置操作者の業務低減とより安全な透析を実現します。また、異なるシステム間でシームレスな連携を実現できるように、2022年3月までに順次、各社の電子カルテに対応していきます。

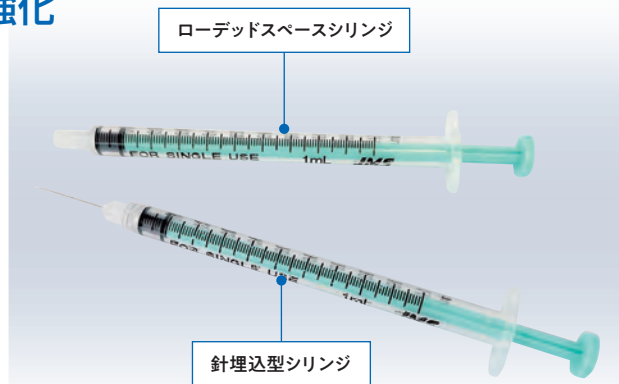
今後は、患者さんに使用されているさまざまな医療機器に蓄積された情報を、本製品を通じて連携させることで総合的な管理を実現し、より良い治療に結び付けるために、医療のDX推進を支えてまいります。



## 効率的な接種を可能にする ワクチン用シリンジの供給体制を強化

当社ではデッドスペースを小さく抑えたワクチン接種用シリンジを開発し、厚生労働省の要請に基づき新型コロナワクチン接種用として供給。9月からは一般の医療機関に販売を開始しております。今後、さらに省スペース化を図った針埋込型をラインアップに加え、供給体制を強化してまいります。

これからも新型コロナウイルス感染症の一日も早い収束に貢献できるよう、効率的なワクチン接種につながる製品を提供してまいります。



## 誰でも楽しく舌の力をトレーニング「ペコジーな」を販売

当社は、広島県の産官学連携プロジェクト(医療・福祉課題解決に向けたデバイス開発パイロット事業)を通じ、国立大学法人広島大学ならびに県内関連企業の皆さまと共に、介護領域や家庭などで手軽に舌圧のトレーニングができるデバイス「ペコジーな」を新たに開発し、2021年10月4日から販売を開始しました。専用アプリをダウンロードしたタブレット端末を使えば、ゲームをしながら舌の筋力をトレーニングすることができます。

口腔機能は高齢者のフレイル\*対策においても重要視されており、介護予防の一つとして、口の健康を維持・向上する取り組みが広く行われています。これからも、摂食嚥下に関わる製品・サービスの開発と提供を通じて、すべての人々の健康でより豊かな生活に貢献するよう努めてまいります。

\*フレイル…加齢により心身の活力が低下した状態。要介護状態に至る前段階に位置づけられています。



ペコジーな



ゲーム画面

## 2年連続「グッドデザイン賞」を受賞 「セルキュア」はベスト100に選出

当社の2製品が、2021年度グッドデザイン賞を受賞しました。昨年の「キュアセンスIP-100」など3製品に続き、2年連続の受賞となります。

経腸栄養療法に用いる栄養セット付きのバッグ状容器「ジェイフィード フィーディングバッグ」は開口部の指ポケットにより、片手での開口と保持を実現し病棟業務の負担軽減と効率化をサポート、細胞凍結保存容器「セルキュア」シリーズは再生医療の要となる細胞の保存過程におけるさまざまな課題を解決したデザインが、それぞれ高く評価されました。「セルキュア」については、審査委員会により特に高い評価を得た「グッドデザイン・ベスト100」に選出されました。

今後も、安全で安心な医療に貢献する製品・サービスを通じ、医療を必要とされる方のQOL(クオリティ・オブ・ライフ)向上に努めてまいります。



セルキュア



GOOD DESIGN  
AWARD 2021

ジェイフィード  
フィーディングバッグ



GOOD DESIGN AWARD 2021  
BEST 100

## 事業ポートフォリオの最適化で 強固な経営基盤を確立し 新たなビジネスモデルを創出していく。

2023年を最終年度とする中期経営計画《GAIN-RG 2023》では、各事業の効率化とシナジーを促し、より収益率の高い企業体質を目指すため「事業ポートフォリオの最適化」を重点施策に掲げています。

今回は、外科治療と透析療法に使用する医療機器(消耗品を含む)の担当部署「サージカル&セラピー BU(ビジネスユニット)」の取り組みをクローズアップ。急性血液浄化事業の譲受や在宅透析分野での業務提携、東京MEセンターの開設について紹介します。

### 急性血液浄化事業の譲受

#### 開発、製造、販売をJMSで

当社は2021年4月、かねてより業務提携関係にあった日本ライフライン株式会社(以下JLL)の急性血液浄化事業を譲受しました。

血液浄化療法は、体外循環を用いて血液から不要物質や有毒物質を除去する治療方法で、透析・ろ過・吸着・分離などの方法があります。慢性血液浄化療法と急性血液浄化療法の二つに大別され、前者は慢性腎不全患者さんに対する血液透析療法が大部分を占めています。一方、急性血液浄化療法は体内の血液から、さまざまな病気の原因となり得る炎症物質やウイルス、悪玉コレステロールなどの老廃物を特殊なる過膜を用いて分離・除去し、浄化した血液を再び体内に戻し、健康状態の改善を図る治療法です。

急性血液浄化療法に関して、当社では2000年頃から持続緩徐



専務取締役  
サージカル&セラピー BU  
統括部長

栗根 康浩

サージカル&セラピー BU  
推進部長

番匠谷 栄治

式血液ろ過器「フロースター」と、時代を先取りした血液浄化装置「アキュフィル オート JC-01」の開発を進めています。2011年、急性血液浄化事業に特化したJUNKEN MEDICAL株式会社を総発売元として、国内販売を開始。しかし、同社が親会社のJLLに吸収合併されたことから、両製品をJLLが販売することになりました。それに前後して、JMS大連でJLLから専用血液回路の生産を受託することが決定。こういった経緯から、JLLの急性血液浄化事業に関する医療機器の開発、製造から販売までの全てを譲受することとなりました。

#### オンリーワンの価値を提供

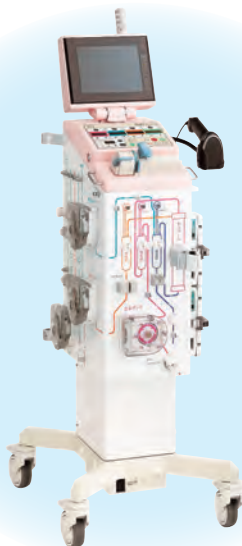
急性血液浄化療法は、大学病院をはじめとする救命救急や集中治療など、特殊で高度な治療領域には不可欠です。救命救急や集中治療は、当社としても重要なターゲット領域と考えていたものの、なかなかアプローチできずにいました。

今回の譲受は、顧客という無形の資産も取り込む好機に。顧客の

新規開拓は、既存顧客の維持に比べて5倍のエネルギーを要するといわれるため、これは大きなメリットです。“新しい既存顧客”となった救命救急や集中治療の先生方に対して、当社の体外式膜型人工肺「オキシア」や遠心ポンプ駆動装置「ECmoVA」といった心臓外科製品群と、それにまつわる一連のシステム提案が可能になりました。簡便性と信頼性の向上によってこの領域での独自性を発揮し、オンリーワンの価値提供を目指していきます。

また、今回の譲受で補強できた人材やノウハウは、急性血液浄化装置の開発、生産だけにとどまりません。慢性血液透析装置や個人用透析装置、あるいはAPD（自動腹膜透析）装置など、幅広い医療機器装置の開発に生かすことができると考えています。

成長著しい中国市場への売り込みが加速することも、もう一つのメリットです。JLLが手掛けていた血液浄化用装置は、中国での薬事承認を受けています。JMS大連で製造する専用血液回路も承認済です。これにより、共通パーツによる量産化体制で原価低減を図り、収益の最大化が見込めます。日本はもちろん中国市場においても急性血液浄化事業が大きく成長するチャンスと考えられます。



急性血液浄化装置「55X-III」

## 在宅透析で業務提携

### 自由度が高い腹膜透析

外科治療領域と並び、サージカル&セラピー BUのもう一つの大きな柱が慢性維持透析領域です。

日本透析医学会の統計調査によると、国内で透析を受けている患者さんは約35万人（2019年末時点）。増加は緩やかになっているものの、今後も年に約5千人ペースで増加していくと予測されます。

透析療法には、大きく分けて「血液透析」と「腹膜透析」があります。日本で9割以上の人が受けているのが、血液を体外循環させて透析装置で毒素を除去する血液透析です。透析施設に週2～3回通い、1回4～5時間の治療を受けるため、生活上の制約が大きく、患者さんにとって肉体的にも精神的にも大きな負担となっています。

一方、腹膜透析は自分の腹膜を介して血液から毒素を除去する治療法。日中に数回、透析液を交換する方法（CAPD）と、装置を使用し自動的に行う方法（APD）があります。CAPDもAPDも在宅で行えるため、生活の自由度が高いのが特長です。


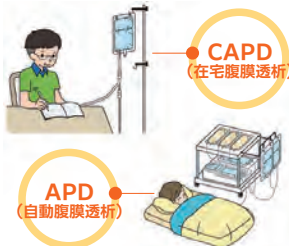
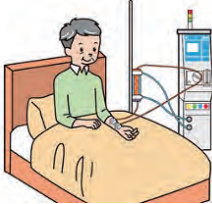
[フレゼニウス メディカル ケア製]



APD装置

腹膜透析液

## 透析療法の種類

	血液透析	腹膜透析	在宅血液透析
			
実施場所	病院	自宅や職場	自宅
主な頻度	週2~3回	1日4~6回	週4~6回

腹膜透析の国内普及率はまだ約3%ですが、近年注目が高まっています。その背景の一つが「医療の多様化」です。ライフスタイルや価値観の変化を受けて医療ニーズも多様化が見られ、透析領域でもその流れは顕著です。医療従事者と患者さんが一緒になって治療方針を決定するSDM (Shared Decision Making) という手法が取り入れられるようになり、患者さんに寄り添った治療の選択を支援する機会が増えています。当社としても、患者さんが“自分らしさ”を実現できる製品やサービスに注力する必要があると考えています。

## 製品ポートフォリオを強化

これらの背景から、当社はドイツの医療機器メーカーの日本人フレゼニウス メディカル ケア ジャパン株式会社と、在宅透析の分野で業務提携を行いました。フレゼニウス メディカル ケアは、世界的な透析市場におけるリーディングカンパニーであり、腹膜透析関連製品から在宅血液透析装置まで豊富な製品群を持ち合わせています。

まずは、同社の腹膜透析関連製品を当社のラインアップに加え、製品ポートフォリオを強化するほか、物流業務の協働などを通じて事業連携を推進していきます。将来的には、患者さんの個別ニーズに応える新技術や新製品の共同開発に関しても協議していく予定です。

## 東京MEセンターを開設

## アフターマーケットを充実

2021年10月、JLLから譲受した急性血液浄化事業の機器製造拠点として「東京MEセンター」(東京都大田区)を開設しました。ME製造関連部門とMEサービス部、TIルーム\* (テクニカルインフォメーションルーム)を1か所に集約し、医療機器に関連するサービスや情報などを効率的に提供していきます。製造業務にとどまらず「お客さまの生の声を聴き、ニーズを肌で感じ、製品やサービスに反映していく」のが大きな役割です。

\*TIルーム: ME装置の研修および商談などを行う施設。



## 東京MEセンターの役割

開発

製造

アフター  
フォロー

人材育成

研修教育

保守

レンタル

など

当社の医療機器をお客さまに安全に使っていただくためには、性能や使い方をしっかりご理解いただくことが重要です。東京MEセンターでは、医療機器のメンテナンスやアフターケア、研修など、製品購入後もお客さまを総合的にサポートするアフターマーケット事業も充実させ、「創って、造って、売って、守って、教育する」という連鎖を起こしていきます。

## 人材の確保、育成に注力

お客さまは医療機器に対して、高い安全性や信頼性、効率的な運用、手軽さなどを求めています。当社がそれらを実現するためには、医療機器の開発や製造に関する高度な専門スキルを持った人材の確保、育成が必需です。東京MEセンターの使命として、首都圏の地の利を生かしたものづくり企業との連携や、専門スキルを保有した人材の確保、育成も目指していきます。

お客さまが必要としている製品やサービスは、最初はニッチ分野かもしれませんが、フレゼニウス メディカル ケア ジャパンと業務提携をした在宅透析の市場も、今はまだ小規模です。だからこそ競合他社より先に参入し、オンリーワンになる。そして、市場の伸びにあわせて当社も成長していく。そのためにも、お客さまとの距離が近い東京MEセンターの存在価値は大きいと考えています。

## 新たなビジネスモデルを創造

今の医療現場は、刻々とニーズが変化しています。高度化、専門化する医療現場の課題を解決するためには、各種安全センサーや警報によるフェイルセーフ、ICTを活用した機器相互の連携、連動、多重監視による集中制御やデータ収集、フィードバックといった、ソリューションビジネスの展開が重要な要素です。まずは、東京MEセンターで医療機器の総合力を向上させ、医療現場の効率化や安全性向上に寄与できる新たなビジネスモデルの創造を目指します。

そして将来的には、AIやRPA (Robotic Process Automation)、IoTなどを活用したDX (デジタルトランスフォーメーション)の流れを原動力にソリューションビジネスへの展開を視野に入れています。個人のスキルだけに頼らない、半自動や省力・省人化に寄与する「安全で効率のよい“良質な医療”の提供」を実現できる体制を構築していきたいと思えます。



東京MEセンターが入居する東京流通センター

## 特集 ミクスフローMP 開発者インタビュー

# 血液適合性をより高めた遠心ポンプ 負担軽減で患者さんのQOL向上に貢献。

人工心肺装置で重要な役割を担う遠心ポンプ「ミクスフロー」をリニューアルしました。モノピポット構造を採用し、改良品の「ミクスフローMP」は従来品に比べ、血液適合性と抗血栓性を向上させました。医療現場のニーズをくみ取り、より安全性を高めた開発者の宮村太基にインタビューしました。



サージカル&セラピービジネスユニット  
治療デバイス部 デバイス開発室 宮村 太基

### Q. 遠心ポンプとはどのような医療機器ですか。

#### 人工心肺装置の重要な構成品

開胸手術をする際、心臓と肺の機能を一時的に代行する人工心肺装置を用いることがあります。遠心ポンプは、人工心肺装置(回路)の中核となる機器の一つです。血流を発生させ、全身の血液を体外で循環させるという重要な役割を担っています。

### Q. リニューアルを検討したきっかけを教えてください。

#### より高い血液適合性と抗血栓性の実現

当社が遠心ポンプを初めて販売したのが2003年。2013年に「ミクスフローN」の提供を開始し、「ミクスフローMP」はその改良版と

して誕生しました。

遠心ポンプに求められる性能の一つが「血液へのダメージ抑制(血液適合性)」です。血液の中にある赤血球が物理的に破壊されると、赤血球中に含まれるヘモグロビンが酸素と結合できず、酸素を全身に運ぶことができなくなります。これを防ぐためには、遠心ポンプ内を通過する血液にダメージを与えないことがポイントになります。

また、「抗血栓性」も大切な要素です。新型コロナウイルス感染症の治療で注目を集めたECMO(エクモ)治療でも、遠心ポンプは使われています。通常の開胸手術より長時間稼働することから、さらなる性能アップを目指してリニューアルを決定しました。

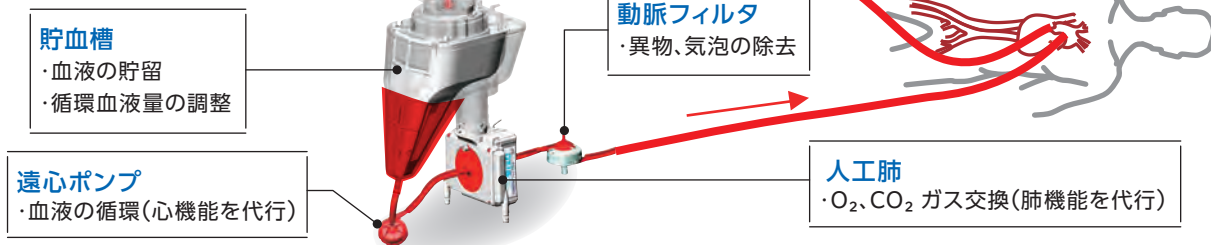
### Q. 「ミクスフローMP」は従来品と比較して、どう進化したのでしょうか。

#### 上部軸受をなくしモノピポット構造を採用

遠心ポンプは、ケーシング(容器)の中でインペラ(羽根車)を回転させることによって起こる遠心力を利用して血液を循環させます。



## 人工心肺回路

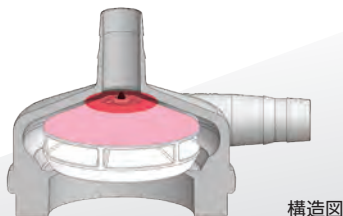


従来品は、回転を安定させるため、上部と下部にある二つの軸受でインペラを支える構造でした。今回のリニューアルでは、上部の軸受を排除。下部だけで支える1点支持型のモノピポット構造を採用しました。目的はポンプ内部の流動状態の改善による血液へのダメージの軽減です。また、軸受を1点にすることで、インペラの軸と軸受けの摺動による摩擦熱の発生箇所が減るため、血液へのダメージがさらに低減されます。なお、この流動状態の改善により血栓の発生リスクも低減しました。

**Q.** 軸受排除と回転の安定性は、どのようにして両立させましたか。

## インペラの上にトップシュラウド

軸受を1点にすることで、回転の安定性に課題が生じます。それを解決したのが、トップシュラウドです。インペラの上に傘のようなカバーを被せることで、回転由来の揚力によるインペラの上昇を抑制。1点支持でも、安定した駆動を実現させました。



**Q.** 充てん量の少なさも大きな特長ですね。

## 体への負担軽減に大きく貢献

当社製の遠心ポンプは、初代モデルから充てん量が少なく、患者さんの血液が異物と接触する割合を少なくし、体への負担軽減に貢献しています。

**Q.** 「ミクスフローMP」に対する思いや将来性を教えてください。

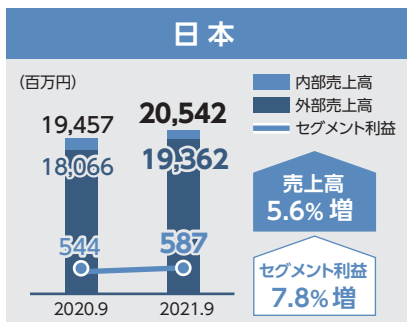
## 患者さんのQOL向上につなげたい

医療機器は、人体に対するリスクに応じて4段階にクラス分けされます。心臓の代わりに担う「ミクスフローMP」は、最高クラスのIV（高度管理医療機器）。不具合が生じた場合には、生命の危険に直結する恐れがあります。その責任を重く受け止め、リニューアルにあたっては検討と評価を重ねて安全性と有効性の確保に努めました。今後「ミクスフローMP」が、術後の患者さんのQOL向上につながることを願っています。



## ■ 所在地別

(注) セグメント利益は、経常利益ベースの数値です。



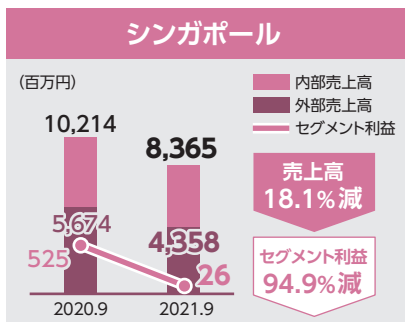
**売上高 205億42百万円**

[外部顧客への売上高 193億62百万円]

- ・新型コロナウイルスの影響から回復傾向にあります。
- ・国際標準化機構 (ISO) 対応に伴う経腸栄養関連用品や新型コロナウイルス関連製品が増加しました。

**セグメント利益 5億87百万円**

- ・血液浄化事業にかかる費用増加や新型コロナウイルス対応に伴う在庫水準の適正化による影響があるものの、増収効果により増加しました。



**売上高 83億65百万円**

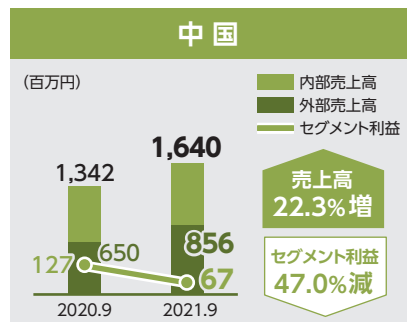
[外部顧客への売上高 43億58百万円]

- ・血液事業において採血数が減少し、成分献血用回路や血液バッグが減少しました。

**セグメント利益 26百万円**

- ・減収影響に加え、現地通貨高や原材料価格の高騰による原価率上昇の影響を受け減少しました。

\*シンガポールは、生産体制を相互に補充し一体とした事業活動を行うインドネシアの現地法人を含んでいます。



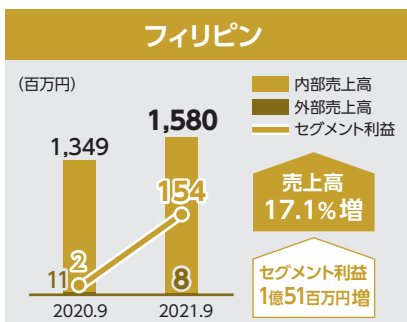
**売上高 16億40百万円**

[外部顧客への売上高 8億56百万円]

- ・中国市場での透析患者数は増加傾向にあります。
- ・AVF針や日本向けの血液浄化回路が増加しました。

**セグメント利益 67百万円**

- ・増収効果があるものの、社会保険料の減免措置があった前年同四半期に比べ労務費が増加したため減少しました。



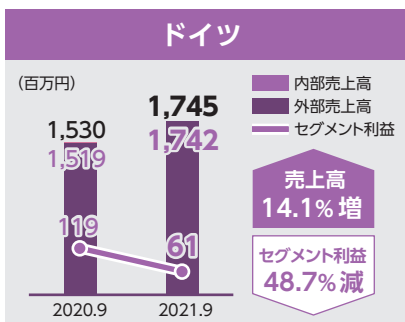
**売上高 15億80百万円**

[外部顧客への売上高 8百万円]

- ・前年同四半期の新型コロナウイルスの影響が改善しました。
- ・欧州向けのAVF針が増加しました。

**セグメント利益 1億54百万円**

- ・増収効果に加え、費用低減により増加しました。



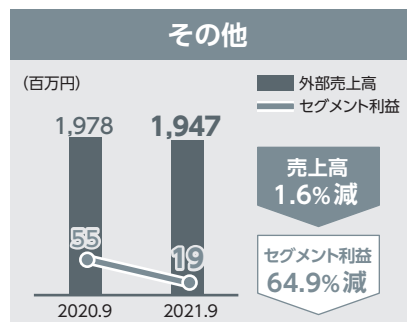
**売上高 17億45百万円**

[外部顧客への売上高 17億42百万円]

- ・AVF針のシェア拡大により増加しました。

**セグメント利益 61百万円**

- ・増収効果はあるものの、海上輸送費の高騰によって仕入原価が増加したことにより減少しました。



**売上高 19億47百万円**

[外部顧客への売上高 19億47百万円]

- \*その他は、国内子会社及びアメリカ、韓国、タイの現地法人の事業活動を含んでいます。

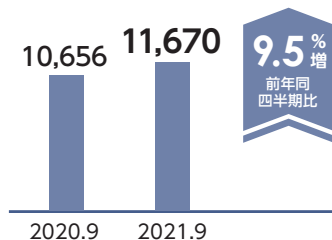
**セグメント利益 19百万円**

## ■ システム別売上高

### 輸液・栄養領域

売上高 **116億70**百万円

(百万円)

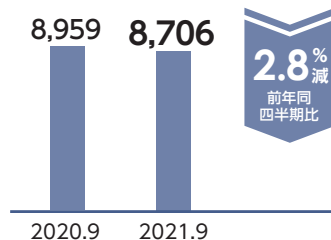


国際標準化機構 (ISO) 対応に伴う経腸栄養関連用品や新型コロナウイルス関連製品が増加しました。

### 透析領域

売上高 **87億6**百万円

(百万円)

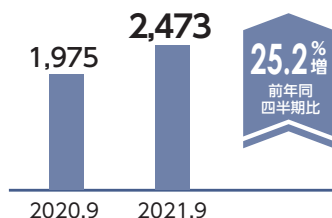


中国向け血液透析装置が出航遅延のため翌第3四半期に繰り越されました。

### 外科治療領域

売上高 **24億73**百万円

(百万円)

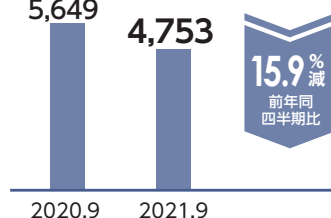


事業譲受した血液浄化回路やペーシング関連用品が増加しました。

### 血液・細胞領域

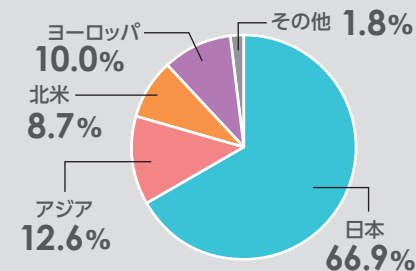
売上高 **47億53**百万円

(百万円)

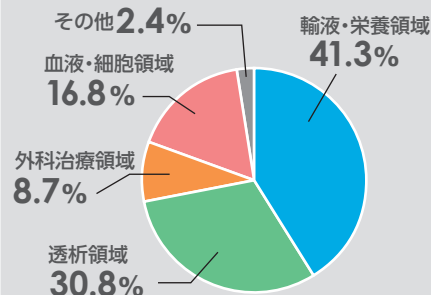


採血数の減少を受け、血液バッグや成分献血用回路が減少しました。

### ■ 地域別売上高構成比



### ■ システム別売上高構成比



#### 輸液・栄養領域

輸液セット、注射針、シリンジ、薬剤調製・投与クローズドシステム、経腸栄養関連製品、摂食嚥下関連用品、輸液ポンプ、医療用手袋、不織布製品、他

#### 透析領域

血液透析装置、ダイアライザ、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液、他

#### 外科治療領域

膜型人工肺、人工心臓装置、人工心臓用回路、ペースメーカ、血管造影用カテーテル、血液浄化装置、血液浄化回路、他

#### 血液・細胞領域

血液バッグ、成分献血用回路、血液成分分離バッグ、再生医療関連製品、他

## 財務諸表《連結》

### ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	前連結会計年度 2021年3月31日現在	当第2四半期 2021年9月30日現在
《資産の部》		
流動資産	38,983	<b>38,870</b>
現金及び預金	5,968	<b>6,787</b>
受取手形及び売掛金	16,415	<b>15,210</b>
たな卸資産	15,687	<b>16,118</b>
その他	912	<b>754</b>
固定資産	30,101	<b>30,442</b>
有形固定資産	24,105	<b>24,116</b>
無形固定資産	692	<b>944</b>
投資その他の資産	5,304	<b>5,381</b>
資産合計	69,085	<b>① 69,312</b>
《負債の部》		
流動負債	22,545	<b>20,135</b>
固定負債	11,546	<b>13,621</b>
負債合計	34,091	<b>② 33,756</b>
《純資産の部》		
株主資本	34,772	<b>35,071</b>
その他の包括利益累計額	69	<b>344</b>
非支配株主持分	151	<b>139</b>
純資産合計	34,993	<b>③ 35,556</b>
負債純資産合計	69,085	<b>69,312</b>

### ▶▶▶ POINT 解説

- ① 資産合計** [前連結会計年度末に比べ2億27百万円増加]  
・受取手形及び売掛金が減少した一方、事業譲受に伴いのれんが増加しました。
- ② 負債合計** [前連結会計年度末に比べ3億35百万円減少]  
・短期借入金が減少した一方、長期借入金が増加しました。
- ③ 純資産** [前連結会計年度末に比べ5億62百万円増加]  
・為替換算調整勘定の変動によるものです。
- ④ 売上高** [前年同四半期に比べ3億75百万円増加]  
・医療機関における外来患者の受診控えや不急の手術・処置の延期などの状況に回復の傾向がみられ増加しました。
- ⑤ 営業利益** [前年同四半期に比べ4億31百万円減少]  
・海外生産拠点の現地通貨高、原材料価格や海上輸送費の高騰による原価率上昇に加え、販売管理費の増加により減少しました。
- ⑥ 経常利益** [前年同四半期に比べ4億44百万円減少]  
・持分法による投資利益の減少に対し、為替差損が減少したことにより減少しました。

### ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)	当第2四半期 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)
売上高	27,900	<b>④ 28,275</b>
売上原価	20,414	<b>21,154</b>
売上総利益	7,485	<b>7,121</b>
販売費及び一般管理費	6,439	<b>6,506</b>
営業利益	1,046	<b>⑤ 614</b>
営業外収益	305	<b>211</b>
営業外費用	224	<b>142</b>
経常利益	1,127	<b>⑥ 683</b>
特別利益	238	<b>2</b>
特別損失	7	<b>31</b>
税金等調整前四半期純利益	1,359	<b>654</b>
法人税等	298	<b>163</b>
四半期純利益	1,061	<b>491</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益(△は損失)	1	<b>△6</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,060	<b>497</b>

### ■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	前第2四半期 (2020年4月1日～ 2020年9月30日)	当第2四半期 (2021年4月1日～ 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,678	<b>1,477</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,406	<b>△1,706</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	516	<b>961</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	13	<b>59</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	801	<b>791</b>
現金及び現金同等物の期首残高	6,008	<b>6,222</b>
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,809	<b>7,014</b>

### ▶▶▶ POINT 解説

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**  
[前年同四半期に比べ2億円減少]  
・税金等調整前四半期純利益の減少によるものです。
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**  
[前年同四半期に比べ2億99百万円増加]  
・事業譲受にかかる支出によるものです。
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**  
[前年同四半期に比べ4億45百万円増加]  
・借入金の収支差額によるものです。

(注)金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

# 会社情報 (2021年9月30日現在)

## ◎コーポレートデータ

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,673人(グループ総数 5,551人)

## ◎役員

取 締 役	代表取締役社長	奥 窪 宏 章
	専 務 取 締 役	栗 根 康 浩
	常 務 取 締 役	桂 龍 司
	取 締 役	佐 藤 雅 文
	取 締 役	柳 田 正 吾
	社 外 取 締 役	池 村 和 朗
	社 外 取 締 役	石 坂 昌 三
監 査 役	常 勤 監 査 役	近 藤 良 夫
	社 外 監 査 役	水 戸 晃
	社 外 監 査 役	佐 上 芳 春

## 国内ネットワーク

### 株式会社ジェイ・エム・エス

- 【本 社】 広島本社／東京本社
- 【支社・営業所】 東日本支社／中日本支社／西日本支社、営業所27カ所
- 【工 場】 三次工場／出雲工場／千代田工場
- 【子 会 社】 ジェイ・エム・エス・サービス株式会社《医療機器の修理等》
- 【関連会社】 株式会社ジェイ・オー・ファーマ《医薬品の製造・販売》

## 海外ネットワーク

- 【子 会 社】 株式会社 韓国メディカル・サプライ《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE.LTD. 《製造・販売》
- 大連ジェイ・エム・エス医療器具有限公司《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション《販売》
- パイオニック・メディツインテックGmbH《販売》
- PT. ジェイ・エム・エス・パタム《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・フィリピン, INC.《製造・販売》
- ジェイ・エム・エス・ヘルスケア・タイランド CO.,LTD.《販売》

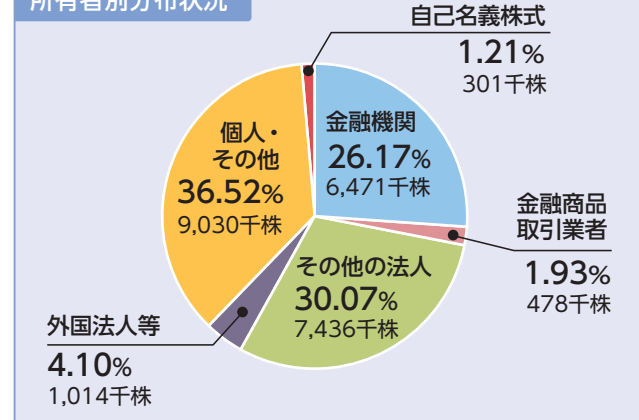
## ◎株式等の状況

- ◇発行可能株式総数 …………… 65,000,000株
- ◇発行済株式総数 …………… 24,733,466株  
(自己株式301,424株を含む)
- ◇株主数 …………… 9,280名
- ◇大株主の状況(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社カネカ	2,473	10.12
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,950	7.98
一般財団法人土谷記念医学振興基金	1,900	7.77
土谷 佐枝子	1,008	4.12
社会福祉法人千寿会	1,000	4.09
株式会社広島銀行	895	3.66
第一生命保険株式会社	861	3.52
大下産業株式会社	571	2.33
JMS共栄会	541	2.21
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	419	1.71

(注)持株比率は、自己株式(301,424株)を控除して計算しております。

## 所有者別分布状況



## 株主メモ 証券コード：7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年  
基準日 定時株主総会 3月31日  
期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。  
(<https://www.jms.cc/ir/denshi.html>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって  
電子公告による公告をすることができない  
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

### ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



### JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <https://www.jms.cc> JMS 検索



## 株式会社 ジェイ・エム・エス

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号  
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル  
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

【表紙デザイン】テーマ「希望の種を育てよう」  
大きな種の上に座り、新芽を育てる女性をモチーフ。



種は成長と希望を表現しています。  
JMSが今後、さらに広げていく事業で、人々の安心を育てていくイメージを描きました。

UD FONT  
見やすいユニバーサルフォントを  
採用しています。